

開会式であいさつをする荒船会長



「日本の書展」スペイン展が11月13日、スペイン国立図書館で盛大に開会式を迎えた。当会としてはこれまで海外で70回を超える展覧会を開催してきたが、9年ぶりの海外展となる。スペイン展は日本スペイン交流400周年の記念事業の一つ

「日本の書展」スペイン展開催

として開催。支倉常長率いる慶長遣欧使節団がサン・ファン・パウティスタ号で石巻を出港したのが1613年10月28日で、スペインに到ったのがその翌年というところで、2013年から2014年を日本とスペインの400年の交流年としている。



公益財団法人
全国書美術振興会
会報

第31号

平成25年12月9日発行

発行者 (公財)全国書美術振興会

編集責任者 坂本敏史

東京都港区赤坂 2-11-1

宮原ビル 6階

電話 03-3568-2071

FAX 03-3568-2072

ホームページ <http://shobi.or.jp/>

題字は福島慎太郎初代理事長

会場風景



当会からは荒船清彦会長や席上揮毫の講師として有岡郷崖理事と高木厚人評議員が出席。スペインからはアナ・サントス・アランプロ、スペイン国立図書館長、佐藤悟駐スペイン日本国大使ら約200名が出席した。

開会式はサントス図書館長が「当図書館は日本の浮世絵を収蔵しており、日本文化への関心も高く、深いつながりがある。日本の伝統芸術である書の最高の作品がここに展示できたこ

とは大きな喜びです」と歓迎の挨拶をし、館長の司会で進行した。荒船会長はスペイン語で「日本の書は伝統芸術の結晶であり、今回の展覧会は日本の代表的な現代書家が、さまざまな表現様式で制作した91点で構成されている。文学的、美術的、さらには運筆の緩急やリズムミカルな動きから即興音楽のようでもある書芸術を、有岡先生、高木先生の揮毫もご覧になって楽しんでいただきたい」と挨拶。続いて佐藤大使が「本展覧会は日本スペイン交流400周年を記念する重要行事であり、スペインで最も格式高い図書館の素晴らしい展示スペースで開催できた。日本とスペインの関係強化の機運が高まっている中、日本を代表する書の大家による最高レベルの展覧会がマドリッドで開催された

ことは誠に意義深い」と挨拶し、内覧会に移った。本展には「日本の書展」で現代書壇巨匠・現代書壇代表に委嘱される先生方の91名にご出品いただいた。会場にはほぼ半切の軸作品と、書道用品の紹介が展示され、スペインの方々には興味深く見入っていた。内覧後、有岡、高木両氏による席上揮毫が行われた。漢字、かなのそれぞれの作品揮毫、六書体およびかなの多様な表現の紹介、スペインの大芸術家、ピカソの同一名言を両氏が書くなど、流麗な運筆や力強い表現に観客は最後まで引き込まれ、歓声をあげていた。デモンストレーションは州立語学学校でも行われた。同様の作品揮毫のほか、日本語を学ぶ語学生30名に書の体験をしてもらい、たいへん好評だった。



有岡郷崖理事



両先生指導のもと体験した語学生のみなさん

スペイン展は国立図書館終了後、サラマンカ大学、アリカンテ大学と巡回し、平成26年10月にはポルトガルに巡回する。



高木厚人評議員

第41回「日本の書展」

40回展に引き続き、41回展も全4会場で開催した。国立東京博物館名誉館員、当会評議員の古谷稔氏が「日本の書・美の確立から創造へ」と題して講演し、書家や関係者、一般の方約1100名の聴講があり、各展ともたいへん好評だった。また、昨年からスタートした「公募臨書」についても、展示形式を変えて今年も開催した。

41回展の入場者数は40回展に比べ、直轄4展で1300名増加した。また、40回展で制作した全作品掲載のDVDが閲覧しにくいと不評だったため、今回は図録（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）に、出品者本人の作品プロマイドを2枚ずつ贈呈した。

第41回「日本の書展」の各展報告は以下の通り。

関西展

平成25年5月30日（木）

6月2日（日）

会場 大阪国際会議場

主催（公財）全国書美術振興会・産経新聞社
後援 文化庁

協賛（公社）日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠14点、代表76点（計90点が全展を巡回）、委嘱31点、招待386点、秀拔選653点、合計1160点、

入場者数は約2800名を数えた。今年も産経新聞紙面にて紹介記事の掲載協力を得ている。会期初日の5月30日（木）、開催披露に先立ち、リーガロイヤルホテル「桐の間」で記念講演会を開催、その後同ホテル「光琳の間」において、来賓、出品者合わせて約350名の出席による開催披露レセプションを行った。レセプションではまず、津金孝邦理事長、荒船清彦会長より主催者挨拶があり、共催の産



荒船清彦会長



津金孝邦理事長



尾崎邑鵬顧問



榎倉香邨顧問

中部展

○第1会場

平成25年6月5日（火）

6月9日（日）

会場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）

○第2会場

平成25年6月4日（火）

6月9日（日）

会場 名古屋博物館

主催（公財）全国書美術振興会・中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市・各県市教育委員会・東海テレビ放送



大阪国際会議場

経新聞社竹田徹事業局長からは、今展の会場を見て「書は言葉では伝えられない人の心の揺らぎが伝わってくる。書を持つ表現力は非常に素晴らしいもの。また、その書が人の心を動かすこともあることを改めて強く感じた」との挨拶があった。続いて榎倉香邨顧問からは「新しい道に動いていった人は尊敬に値する。書も、手近なことも、マンネリはやめましょう」との書家代表挨拶があり、尾崎邑鵬顧問の乾杯の発声により祝宴に入った。

協賛（公社）中部日本書道会
ひと足早い夏の陽気を迎えた名古屋で、今年も愛知県美術館ギャラリーを第1会場、名古屋博物館を第2会場として、今回も2会場での開催となった。中部展の出品数は、巨匠、代表の90点、委嘱14点、招待158点、秀拔選593点、合計855点、会期中の入場者数は2会場を合わせて約5800名と昨年と比較し大幅に伸びた。中日新聞社の紙面紹介、また会期中には東海テレビ放送の放映があり、各協力の影響も大きかったとみられる。



榎本樹邨顧問



中野新聞社小山勇常任顧問

両会場の会期が揃った6月5日（水）、名古屋東急ホテル「パロクの間」で記念講演会を、その後同ホテル「ヴェルサイユの間」において来賓、出品者合わせて約340名の出席による開催披露レセプションを行った。レセプションでは、津金理事長、荒船会長から主催者代表挨拶、中日新聞社小山勇常任顧問からは「新聞社としてもこの地のために役に立たなくてはという使命感を持ってやっている。これ

からもみなさんと一緒になって書美術の振興のために努めたい」との共催者挨拶があった。続いて榎本樹邨顧問からは、今展の会場、作品について「今回のみなさんの作品は野心に燃えた作品だった。来年もあの野心でもって頑張ってもらいたい」との書家代表挨拶があった。続いて東海テレビ放送加藤昭宏事業局長の乾杯の発声により、祝宴に入った。



名古屋市博物館



愛知県美術館ギャラリー

東京展

平成25年6月13日（木）

6月23日（日）

第41回「日本の書展」 記念講演会 講演要旨 「日本の書―美の確立から創造へ―」

東京国立博物館名誉館員 元大東文化大学教授
(公財)全国書美術振興会評議員

古谷 稔

開催日・会場

(関西展) 5月30日(木)
(中部展) 6月5日(水)
(東京展) 6月13日(木)
(九州展) 7月4日(木)

リーガロイヤルホテル 桐の間
名古屋東急ホテル パロックの間
ホテルオークラ東京 曙の間
福岡アジア美術館 あじびホール

存するのをみてもわかります。

二、かな書法の萌芽

―万葉がな―
『万葉集』は奈良時代に成立した和歌集ですが、漢字本来の意味に基づいた読み方である正訓のほかに、漢字の音に基づいた音がな、和訓に基づいた訓がなを交えて用いて書き表しています。これを万葉がなとよんでいます。

三、日本漢字書法の確立

―三筆の役割―

中国大陸に遣唐使として渡った空海、橘逸勢の二人に、嵯峨天皇を加えた「三筆」は、奈良時代のように受け身の姿勢ではなく、日本の漢字書法確立に貢献しています。かれらが残した遺品には、中国書法を骨格としながらも、それとは違った特有の趣がにじみ出たものであり、たとえば「風信帖」には、かな書法を予告するかなのような筆致が部分的に見られます。

四、「和様」漢字書法の確立

―三跡の活躍―

三筆によって確立された漢字書法は、男子の必須の教養とされた漢詩漢文の盛行とともに軌道に乗りますが、菅原道真が登場するあたりから、次第に「和」の文化が高まりを見せ、『古今和歌集』の成立をみます。すなわち「和」の美が高まりを見せ、その美意識は紫式部や清少納言などの文学作品にも遺憾なく発揮されました。一方、小野道風をはじめ藤原佐理・藤原行成ら、三跡の能書によって唐の白居易の詩文集『白氏文集』が中国書法でなく、見事な「和様」書法によって再三にわたって揮毫され、それらの名筆は今日にも伝存しています。

五、「男手」と「女手」の競演

―『万葉集』のかな古筆―

平安時代の村上天皇は、天曆五年(九五一)、『後撰和歌集』の編纂と『万葉集』によみを付すことを命じました。これにより、それまでの『万葉集』では万葉がな(男手)だけで書かれた短歌一首であったものを、さらに同一の短歌にひらがな(女手)のよみを加えて書写したため、一躍、万葉の愛好が高まったようです。

六、かな書芸術の頂点

平安時代一〇世紀末頃の『うつほ物語』(国譲・上)に、①男手、②男手にもあらず女手にもあらず、③女手、④片仮名、⑤章手など五種のかな書体が出てきます。このうち②は「草が



な」(万葉がなの草体)と見られていきます。かなの連綿や散らし書きなどの、かな書法の高度な技法が発揮されたのは、この平安中期〜末期であり、現存するかな古筆の名品「高野切」や「寸松庵色紙」「継色紙」「升色紙」の三色紙はこの時代に成ったものです。「本願寺本三十六人家集」など、料紙工芸の美の限りを尽くした「書」も登場します。

七、漢字とかなの交用と書の美

―平安から鎌倉以後へ―

藤原公任によって編集された詩歌集『和漢朗詠集』は、中国と日本の漢詩および和歌が収録され、「書」としても漢字とかなが集団的に交互に登場し、和漢の書が美がリズムに乗って見る者にも心地よく伝わってきます。漢字とかなの融合、これこそ日本の書が伝統美を活かした大きな成果です。絵巻の詞書、書状(手紙)のたぐいは、日本語を漢字かな交じりの書で書き記しており、その調和する趣は人それぞれ、個性的なものから時代性に富むものまで様々な世界を形成しています。

八、書の伝統美から創造へ

「書」が美の頂点を極めると、「型」(流派)が生まれます。室町時代に流派を重視した書がある一方で、破格法外の禅林墨蹟も注目されます。ついで桃山から江戸初期にかけて活躍した寛永の三筆(本阿弥光悦・近衛信尹・松花堂昭乗)らが登場し、長大な巻物や規模雄大な大字かな屏風作品、あるいは画賛に書画一体の美を生み出した作例もあります。それらはいずれも書の古典が基盤をなしています。

【おわりに】

日本の書は、歴史を振り返ると、中国大陸からの文化的影響を断続的にうけつつも、一方で日本の風土や国民性に根ざした独自性を盛り込みながら、情緒豊かな書的美を創造し、現代に至っています。

伝統文化として容認される書の古典を無視することなく、過去・現在・未来と「日本の書」をつなげる姿勢が、世界にも通用する今後の「書」の在り方だと考えます。



「書写・書道教育に関する要望書」を提出

書写書道教育の充実、とりわけ毛筆書道教育の充実を図るため、検討会を開き、本年6月に文部科学大臣に要望書を提出した。

I. 「書写・書道教育に関する要望書」経過報告

①平成25年1月15日から全日本書道連盟と全国書美術振興会とで「書写・書道教育の現状と課題」について検討会を始める。次期の学習指導要領の検討が始まる今こそ、書道界をあげて毛筆書道教育の充実のための要望書を提出する時期であることを確認し、数回の検討会を開く

②平成25年4月に要望書の文案、教育系書道団体を加えた発起6団体、賛同団体6団体を決め、依頼状を出し、5月8日に全ての団体から賛同が得られた。

■発起団体Ⅱ（公社）全日本書道連盟、（公社）全国書美術振興会、全日本書写書道教育研究会、全日本高等学校書道教育研究会、全国大学書写書道教育学会、全国大学書道学会

■賛同団体Ⅱ（財）毎日書道会、読売書法会、産経国際書会、（公社）日本書芸院、全日本書文化振興連盟、全国書道高等学校協議会

③平成25年6月27日、下村博文文部科学大臣に面会。全国書美術振興会からは荒船会長と

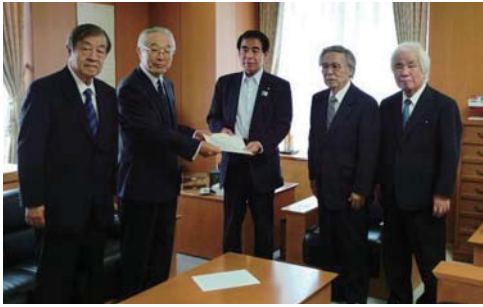
津金理事長、全日本書道連盟からは樽本理事長と田中常務理事が出席し要望書を手渡しした。中央教育審議会会長宛の要望書は文部科学省の担当官に預けた。

7月17日に青柳正規文化庁長官に要望書を手渡した。全国書美術振興会からは荒船会長と津金理事長、全日本書道連盟からは石飛副理事長と田中常務理事が出席。

II. 今後の活動方針

8月21日の常務理事会で、要望書の実現に向けて下記の活動方針が協議された。

1. 事業を推進する組織として「書写・書道教育推進協議会」をつくり、事務局は全日本書道連盟に置いて実質実行機関とし、事業の総務・統括は全国書美術振興会が行う。また、組織にマスコミを入れる。



中央は下村博文文部科学大臣

書写・書道教育に関する要望書

昨今のパソコン等を代表とするIT文化の飛躍的な進化には目を見張るものがあり、まさに人類の英知が結実したものといえるでしょう。一方で、この趨勢が、長い歴史の中で培われた伝統や文化といった、民族各々が大切に保持継承してきた有形・無形の遺産に対する認識と理解を希薄にするのではないかと危惧する声もあります。

現在、日本でもこのような観点から政治、経済、文化を通じ、健全で確固たる国家観を有する国民、特に次世代を担う青少年の育成を重要視すべきであり、教育的措置が図られなければならないと考えます。

こうした中、我が国には最も誇りうるものがあります。それは漢字、仮名（平仮名、片仮名）等を自在に使用し、言語を表記する文化です。このような言語形態と言語表記を有する国は世界のどこにも例を見ることができません。さらに、その表記を担ってきたのが毛筆による我が国の文字文化であり、毛筆文化は単に表記のみならず、美への発展となり、日本文化の象徴的存在といっても過言ではありません。

さて、我が国の書写・書道教育については学習指導要領に目標が示され、達成のための指導内容等が明記されています。その根幹をなす理念として、毛筆教育には伝統的な言語文化に触れたり、毛筆書写することによ

り文字文化を尊重し、親しむ態度を育成することが掲げられています。さらには静かな環境で筆を持つことによって心を落ち着かせ、集中力を高める効果をもたらすということも事実のようです。

したがってここに、小、中学校国語科書写、特に毛筆書写教育の一層の充実、ならびに高等学校芸術科書道教育に関する要望をいたします。

一、小学校においては、国語科書写教育の一層の充実および硬筆の基礎となる毛筆を第一学年から取り上げ、文字の成り立ちや筆順に触れることなど、毛筆が授業で確実に教えられるよう各学校への指導を徹底していただきたい。

二、中学校においては、国語科書写教育の一層の充実および学習指導要領に示された内容ならびに時間数を確実に実施していただくとともに、とりわけ毛筆による書写の学習等を通じて、我が国の言語文化の豊かさに触れるような実践をするよう各学校へ強く指導していただきたい。

三、高等学校においては、書道教育の一層の充実および我が国の伝統文化の尊重という視点に立って、芸術科書道の科目の増単位を要望するとともに、生涯学習社会における書道教育の一層の充実という観点から各都道府県教育委員会に書道教員の採用拡充を求めたい。

なお教育現場の中では、毛筆の授業にあたり、担当する教員が基礎的な書写技能や指導法に自信が持てず、小学校、中学校において毛筆の書写教育が十分行われていない現状等にかんがみ、現場への具体的な支援および教員養成大学学部での指導等についても格段のご高配を賜りたく存じます。

平成二十五年五月十五日

公益社団法人全日本書道連盟

理事長 樽本 樹郎

公益財団法人全国書美術振興会

会長 荒船 清彦

全日本書写書道教育研究会

理事長 長野 秀章

全日本高等学校書道教育研究会

会長 小林 典彦

全国大学書写書道教育学会

理事長 瀧 俊朗

全国大学書道学会

理事長 宮澤 正明

全国書道協議会

理事長 平形 精一

なお、この要望書に賛同するその他の書道関係団体を以下に列記いたします。

一般財団法人毎日書道会

読売書法会

産経国際書会

公益社団法人日本書芸院

全日本書文化振興連盟

全国書道高等学校協議会

文部科学大臣

下村 博文 殿

「書道国会議員連盟」 設立総会が開かれる

平成25年11月27日、衆議院第二議員会館で「書道国会議員連盟」の設立総会が開かれた。発

起人には河村建夫、中谷元、大畠章宏、塩谷立、玄葉光一郎、三原朝彦、中川正春、関芳弘、佐藤英道氏が名を連ねている。

当日の設立総会は関芳弘氏の司会で進められ、この連盟には46名の国会議員が超党派で参加を表明していることが紹介された。会長には河村建夫氏が選出され、他の役員は会長一任となった。

「書道は世界に最も誇れる日本の伝統文化として長い間発展してきたが、昨今のIT分野等の発展に伴い、その書写能力や技術が徐々に希薄になっていくのではないかと心配されている。小、中学校国語科の毛筆書写教育の一層の充実、高等学校芸術科書道教育の充実、さらには書を愛するすべての人達の育成に尽力し、その普及発展に貢献することを目的とする」という内容の設立趣意書が承認されている。

書道界から当会の荒船清彦会長、津金孝邦理事長ら6名と公益社団法人全日本書道連盟の榎本樹郎理事長、石飛博光副理事長ら4名が出席した。代表として荒船会長が「書道国会議員連盟の設立をお祝い申し上げる。我々書道に関係する団体にとって力強い限りだ。日本の書道の普及、

振興のために、また、我々が行っている書写・書道教育の充実に向けての要望事項が実現されるように、議員連盟の先生方のご支援を賜りたい」と祝辞を述べた。



展覧会案内

第42回「日本の書展」

関西展

平成26年5月29日(木)

6月1日(日)

大阪国際会議場(3階イベントホール)

午前10時～午後5時「最終日は午後4時閉館」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・産経新聞社
後援 文化庁(予定)

協賛 公益社団法人日本書芸院

○開催披露

平成26年5月29日(木)

午後12時30分

リーガロイヤルホテル

中部展

〈第1会場〉

現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱・招待・秀拔選(一部)
平成26年6月4日(水)

6月8日(日)

愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

午前10時～午後6時「6日(金)は午後8時閉館、最終日は午後4時閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」

〈第2会場〉
秀拔選
平成26年6月3日(火)

6月8日(日)

名古屋博物館(3階ギャラリー)

午前9時30分～午後5時「最終日は午後3時閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・中日新聞社
後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送(予定)

協賛 公益社団法人中部日本書道会

○開催披露
平成26年6月4日(水)

午後6時

名古屋東急ホテル

東京展

公募臨書

東京展 公募臨書

平成26年6月12日(木)～6月22日(日)〈17日(火)は休館日〉

国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)

午前10時～午後6時「入館は午後5時30分まで」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・共同通信社
後援 文化庁(予定)

○開催披露

平成26年6月12日(木)

午後12時30分

ホテルオークラ東京 本館

九州展

平成26年7月10日(木)

7月15日(火)

福岡アジア美術館(7階企画ギャラリー)／8階交流ギャラリー

午前10時～午後8時「最終日は午後5時30分閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・西日本新聞社
後援 文化庁(予定)

○開催披露
平成26年7月10日(木)

午後6時

ホテルオークラ福岡

※開催情報は変更となる場合があります。

近年物故者

次の先生方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

平成25年

古久保泰石先生(参事)

2月5日 92歳

伊織蘇峰先生(参事)

4月1日 56歳

田岡正堂先生(参事)

7月29日 79歳

書美術功労者の顕彰

日本芸術院会員になられた井茂圭洞先生、並びに文化勲章を受章された高木聖鶴先生の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

あとがき

今年は「書写・書道教育に関する要望書」を文部科学大臣に手渡したり、9年ぶりの海外展をスペインで開催したりと、「日本の書展」の本展以外にも多事ありました。書の普及、振興を目標に、書のすそ野を広げるためにはぜひとも行うべきことでした。書家の先生方、関係各位のご指導とご協力为实现することができました。感謝申し上げます。(坂本)

事務所のご案内

〒107-0052

東京都港区赤坂2-11-1宮原ビル6階

TEL. 03-3568-2071

FAX. 03-3568-2072

ホームページ <http://shobi.or.jp/>

メールアドレス info@shobi.or.jp